Branch Spirit

中部支部

第12回北陸合同バイオシンポジウム開催報告

伊藤　崇志

2019年10月25日～26日に福井県あわら温泉（ホテル清風荘）にて，第12回北陸合同バイオシンポジウムを開催いたしました．本シンポジウムは富山県，石川県，福井県の北陸3県の県立大学の生物系学部と金沢大学医薬保健研究域，長岡技術科学大学工学部，東京大学生物生産工学研究センターが中心となって毎年開催しています．第12回は福井県立大学生物資源学部が当番校として世話役を務めました．

今回の講演プログラムは以下の通りです．

・「ガラスの細胞壁をもつ珪藻とパルマ藻」佐藤晋也先生（福井県立大学）
・「フグにおけるフグ毒の役割」糸井史朗先生（日本大学）
・「抗体溶液の粘性を予測する」関口光広先生（石川県立大学）
・「難分解性含ハロゲン有機リン化合物を分解するホスホトリエステラーゼ」阿部勝正先生（長岡技術科学大学）
・「大腸菌リジン脱アセチル化酵素のN末端バリアントの発現・機能解析」楳原琢哉先生（東京大学）
・「染色体再編成：その誘発と表現型に与える影響」風間裕介先生（福井県立大学）
・「医薬品および機能性食品開発におけるソリューションを提供する代謝酵素ライブラリー」西川美宇先生（富山県立大学）
・「耐湿性ダイズ作出を目指したオミクス解析」小松節子先生（福井工業大学）
・「未利用バイオマスからバイオエタノールを製造させるために！」星野一宏先生（富山大学）
・「乳酸菌RNAによる腸管免疫の賦活」辻典子先生（産業技術総合研究所）

各演題30分の講演で，内容はご覧のとおり多岐にわたり，個々の内容も充実していて興味深いものばかりでした．

1日目の夕食後には学生を中心としたポスター発表が行われました．今回は39演題の発表がありました．ポスター賞を用意し，皆さん大変熱心に発表をしていただきました．

ポスター発表のあとは懇親会でした．その中で，毎年恒例の都県対抗日本酒対決が開催されました．4県＋1都の酒処が持ち回りで開催しているシンポジウムですので，どこのお酒が一番おいしいか，毎回，各都県の自慢の日本酒（一升瓶，4000円以内）を持ち寄り，競いあっています．今回も例年通りハイレベルな戦いで（私は日本酒に詳しくはありませんが），本シンポジウムで一番盛り上がったシーンの一つでした．

シンポジストの先生方，ポスター発表の学生さん方，日本酒を持ってきていただいた先生方のおかげで大変充実した会にすることができました．また，ホテルでの食事は大変豪華なものを用意していただいて，参加者の方々も驚いておられました．北陸はどこへ行っても食事がおいしく，ホテルの食事もこのシンポジウムに参加する楽しみでもあります．

2020年は富山県で開催される予定でしたが，新型コロナウイルスの影響で開催はなくなり，次回は2021年以降の開催となります．もしこの記事を読まれて，参加してみたいと思われた方は，是非，ご一報ください．シンポジストとしてお声掛けさせていただくかもしれません．

最後になりましたが，本シンポジウムは日本生物工学会中部支部の共催により開催させていただいております．共催いただきましたことを心より感謝いたします．

図1．ポスター賞受賞者とシンポジウム実行委員長（日弄隆雄教授）

図2．参加者集合写真

著者紹介　福井県立大学（准教授）　E-mail: tito@fpu.ac.jp